

スポーツ運動学の視点から武芸伝書を読む
-武芸伝書に示された運動伝承の慣用語に着目して-

摘要

日本の伝統的運動文化である武道は、鎖国によって西欧の近代の波を受けずに醸成されたという独自性がある。近世において多数の武芸伝書が著されたが、それらを分析することによって醸成された日本の文化性を分析・検討したい。今回は慣用語に着目し、分析することによって独自性を明らかにしようというものである。今回紹介する慣用語は、修行、事理一致、水月、残心、捧心、威勢である。これらは死語となる危惧があり、その意味でもここで紹介し、残していきたいと思う。